

# にゅとぴあ岸和田

岸和田市国際親善協会だより

ifa-きしわだ



■9月19日、20日、24日目の「インフォメーションセンター」を開設しました。両日とも好天に恵まれ、今年も215名もの大勢の外国人がセンターを訪れました。

昨年同様、イスラエル、カンボジア、スコットランド、ウクライナ、中国内蒙古、ベルギー、スペイン、シンガポール、オーストリア、オランダ、フィンランド等のヨーロッパや中東諸国からの留学生・旅行者が目立ちました。また、南米ガイアナやオセアニアの小国で僅か人口20万人のパヌアツからの珍しいお客様もありました。多くの方はインターネットで情報を得たと言います。2日間、約30名の通訳ボランティアの会員に大阪観光大学の中国人留学生7名を加えたスタッフは対応に大わらわ。紅白の鉢巻にハッピを羽織り、大ウチワを手に記念写真を撮るなどセンターは終日賑やかな楽しい雰囲気になりました。

■信貴市長が両日にわたり激励に訪れて下さり「岸和田の観光を考える上で外国人への爽やかなおもてなしは重要

信貴岸和田市長がインフォメーションセンターに激励に来て下さいました。



です。来年も再来年も是非続けて下さい。」と述べられ、外国人グループと一緒に記念撮影にも加わって頂きました。



■今年からだんじり祭の由来・曳行コース・祭り歩きマップ等を記載したリーフレットに英語・中国語・韓国語・スペイン語・インドネシア語に加え、フラン

ス語版が仲間入りしました。おもてなしの幅が広まり大変喜ばしい限りです。2日間数々の「お・も・て・な・し」が出来ました。街中で頭に紅白の鉢巻をした外国人を沢山見受けました。皆さんセンターへ立ち寄って下さった方々です。



■これからも祭礼だけでなく外国人との関わりは日常的に増加するでしょう。境目の無いふれあいのため皆さん楽しみながら進んで行きましょう。(桐原 喜彦)



「にゅとぴあ岸和田」は世界の人びと、団体、都市との出会いを求め、ふれあいを大切にしたい親善・交流を通してお互いの連帯を深め、世界の平和と繁栄、人びとの幸福の増進のための貢献を目的とした、岸和田市国際親善協会の活動記録とメッセージの発行物です。

# おもてなし ひと言コメント

## だんじり 2015外国人のための イベントフォーメーションセンター

岸和田だんじり祭りは、別名「下駄祭り」と呼ばれるほど天候的にはあまり恵まれていないお祭り知られています。しかし今年も昨年に引き続いて、素晴らしい秋晴れに恵まれた二日間のお祭りでした。ここ数年のうちに急激に目立っている傾向は、やはりインターネットというメディアを通じて得た事前調査情報に基づくピンポイント観光客が増えてきたという点です。お祭りの1~2週間前には、鬼怒川沿いの集中豪雨、東京地区の震度4の地震、阿蘇山噴火、チリ地震の余波による太平洋岸津波注意報など一連の自然災害について、殆どどの訪問外国人がネットを通じて把握済であったという事実には驚かされました。今年は34カ国、215名と近年にない多くの来訪者を迎えました。ほんの一部ですが、ひと言コメントをご紹介します。 (広報部会)

### 1 番目の来訪者！

10時前のスタッフへのレクチュアリングの最中に訪れました。イスラエル、テルアビブ大学を退職されたばかりのグシュノール・ミCHEル元大学教授ご夫妻です。退官記念旅行として、日本を選んだ理由は、「世界で一番平和な国の一つ」だからそうです。やはりインターネットで知ったそうですが、センター前を一丸となって走るだんじりの姿をみて、「これこそ平和の象徴」とあらためて感じたそうです。イスラエルから見た日本の平和、もう一度そのありがたさを考えましょう。



### 闘 牛パワー全開！

「そーりゃ、そーりゃ」と雄たけびをあげながら、闘牛の如く熟年グループ8名が勇ましく入ってきました。スペイン、バルセロナからのご一行です。いつもこの調子でサッカーの聖地カンプ・ノウ・スタジアムでFCバルセロナを応援しているそうです。東北から九州までの3週間の豪華旅行の真っ最中に、立ち寄っていただきました。「そーりゃ、そーりゃ、ってどういう意味？」素朴な質問です。

「一丸となって5トンものだんじりを引くための掛け声です」納得のご様子でした。

### え え、あの歴史的な街から！

USA、ダラス、ディーリー広場、エルム通りの近くにお住まいです。皆さんおわかりでしょうか？そうです。J.F. ケネディ第35代合衆国大統領が暗殺された場所です。その教科書倉庫6Fはそのままミュージアムとして残っているそうです。しかし、どうしてだんじり祭りに？

「YouTubeで世界で一番 crazy な festival, but cool! Amazing! Awesome! と紹介されるのを見た。」 関空から直行でやって来た3人グループ。大きな荷物をセンターに預けて見物に出かけたものの、4時間後大変お疲れの様子で戻ってきました。でも感想はやはり COOL! AMAZING PEOPLE! AWESOME! と感嘆の言葉を発していました。

あと3週間頑張ってください。 HAVE A NICE TRIP!



### おもてなし！

神戸外国語大学留学中のドイツからのイェンスさん、ソイベンさん、ワイクさん。9月に来日したばかりですが、日本大好き、神戸大好き、日本文化大好き、だんじり大好き。どうして？日本人大好き。2年後ドイツに帰ったら、ドイツと日本の橋渡しになるような仕事に就きたいと大の親日家の仲良し3人です。それを聞いたスタッフの中塚 義幸・之子さんご夫妻が、お礼に法被の着付けをしてあげました。ダンケシェーン。



### さ あ大変 宿泊予約なし！

2日目午前に関空から直行して来たというフランスと英国の若い国際カップルがアルピニストの様相で、大きなリュックを背負い入って来ました。そして直ぐに運動靴に履き替えてだんじり見物に出かけました。センター閉鎖の直前に戻って来ました。突然「キャンプの出来る宿舎はありませんか？」と。通常でもどこも満杯なのに、シルバーウィーク、更にだんじり祭りとなると、全くホープレスの状態です。一応スタッフでいろいろ探してみました。結果は言うまでもありません。一同困っていた処、スタッフの篠原さんからホームステイのお申し出があり、お2人とも大変喜んでいただきました。これこそ本来の国際親善の姿ではないでしょうか。そのあと、夕食、入浴、布団の上での睡眠、朝食、京都の雰囲気似た竹林の散歩と楽しく過ごされたそうです。

心温かいおもてなしに大拍手です。



### 遠い国からいらっしやい！

りんくうタウン・関西国際センターで8カ月間の予定で日本語研修中の、遙か南米ガイアナ出身のジョンさんと、南太平洋の火山島上に位置するバヌアツ共和国出身のオスボンさんです。日本では余り馴染みのない国ですが、お二人ともエリート外交官として、将来きっと日本との重要な友好関係構築のために尽力していただけることでしょう。有力なEOCスピーカーとしてスカウトしておきました。

# 岸和田歌舞伎公演 お練り

7/20  
(祝)



豪華な顔ぶれ

夏到来の岸和田で、四代目中村鴈治郎襲名披露の歌舞伎公演が催されました。公演に先駆けて、岸和田駅から浪切ホールまで五名の歌舞伎俳優のお練りがあり、国際親善協会の会員やサロン生たちが法被を着てのぼり旗と提灯を持ち、昔さながらの賑やかなお練りの列に加わりました。

駅前では、お練りの出発式を見ようと大勢の方が集まり熱気があふれ、暑さも最高潮でしたが、それでも俳優の皆さんは人力車の幌もかけず沿道の皆さんにご挨拶されました。中村虎之介の後方を練り歩いていたインドネシアからのサロン生を虎之介にご紹介すると、気さくに話しかけられていました。

人間国宝 坂田藤十郎文は、ご自身の襲名披露公演の時も岸和田でお練りをしたことを思い出し、「岸和田とはご縁がある」とお話されました。公演は、鴈治郎の御家芸のひとつで、明治29年以來の単独上演となる『引窓』、四代目中村鴈治郎襲名披露 口上、そして、『連獅子』と続き、その眞縁と迫力に感動しました。

上方歌舞伎の名跡が継がれて行くお祝いを岸和田でも執り行われたことで、改めて伝統芸能のすばらしさを実感しました。また、国際色豊かなお練りとなったのも岸和田らしい一面だったと思います。(三森 すみ代)

お練りの列 参加のみなさん



## 和泉高校 留学生への日本語指導



高校生の交換留学をサポートする世界最大の交流組織であるYFUを通じて、オランダ出身のジャンニ君が、和泉高校で当協会会員による日本語指導を受けています。取材日の担当は岸上さち子さんでした。YFUの留学生は、異文化での生活体験をすることで、本人やその周りの人たちが文化の壁を越えてお互いに理解し合い、人間的に成長し、その結果すべての人々にとって住みよい世界を作っていくことを目的としていますので、通常の学校間での自由なことを学習する留学生とは少し違います。英語力もかなり要求されますが、ジャンニ君はネイティブと変わらぬハイレベルです。3月に来日し、4月から日本語を中心に日本文化を学習中ですが、やはり文化の違いに戸惑いがちの様子です。他の国々と違うのは、交通機関から学校のスケジュールまで、時間の観念が非常に厳しいということです。留学先として日本を選んだのは、世界に類を見ない漢字、カタカナ、ひらがな という3つの文字手段がある日本文化に興味を持ったからだそうです。まだ、どのクラブ活動にも参加して



### 【編注】

YFU / Youth for Understanding International Exchange  
ジャンニ君は東岸和田サロンでも毎週学習を続けています。

いませんが、現在模索中のようなです。堺のホストファミリー宅から通学していますが、みんな親切でやさしいので、日常生活では、何の不安もありませんが、日本の湿度の高い蒸し暑さにはたまらないそうです。

留学は来年1月までの予定ですが、帰国後はプログラマーとして、いろいろなソフトをつくりながら、日本の文化の普及、特にアニメ、マンガや、Play Station, Wiiなどの家庭用ゲーム機に関連した職業に携わりたいそう、向学心にあふれた高校生です。(広報部会)



エルムンドとはスペイン語で「世界」を意味します。国際化の時代にあわせ、世界のカルチャーファッション、旅行、ライフスタイル等々がどんどん変わりつつあります。その中で皆さんが日常生活で感じたことを題材にとられず、自由に投稿していただくという趣旨のコラムです。

\*\*\*\*\*

### 《異文化理解と相互理解》

グローバル化が進んでいる今、「多文化共生」と「国際理解」という言葉はよく耳にします。私は公益財団法人大阪府国際交流財団(OFIX)の国際交流員として国際理解教育の支援の一環として OFIX に登録している外国人サポーターを小・中・高等学校に派遣します。27年度は前年度と比べて、学校、特に小学校からの派遣依頼が増えました。それは小学校の早い段階で英語教育が導入されるようになって、異文化理解が強調されることになったと思われる。これはとてもいいことだと思います。日本はずいぶん変わってきています。ただし、国際理解、あるいは、異文化理解というのは日本人だけに押し付けるべきではないと思います。外国人にも国際理解・異文化理解をしなければいけません。このような出来事がありました。ある英語圏の方は市役所へ印鑑登録に行きました。しかし、持っている印鑑は漢字が入っていて、窓口の人はその印鑑を登録できないと伝えました。外国の人は文句を言っていたのですが、いくら説明しても納得できませんでした。

このよう場面では「母国では」と言い張る外国人は少なくないと思います。しかし、母国ではなく日本にいることを忘れてはいけません。異文化理解というのは相互理解です。「私を理解してください」ではなく、「お互いにお互いの文化を理解しましょう」なのです。日本が異文化理解に力を入れていることは大変素晴らしいことです。そして、日本人は異文化を理解するだけではなく、異文化を少しでも理解できたら、今度は外国の方に外国の方が少しでもわかることができるように日本の文化を教えるべきです。

(Alvin Tan)



6/20  
(土)

天羽 亮太 / David Amoh さん  
(アメリカ)

今回のイングリッシュオープンカフェのゲストは、天羽亮太さんです。東京都に生まれ2歳の頃にアメリカのカリフォルニア州へ移住しました。アメリカの大学で経済学を専攻し卒業後はアメリカの大手通信会社へ就職、退職後はオーストラリア、タイで英語講師として勤め現在は大阪府池田市の小学校でALTとして英語を教えています。

テーマは人種差別についてです。映画館や飲食店、バス、公共トイレにいたるまで黒人用と白人用に分けられていました。天羽さん自身も差別を受けました。小学校時代に学校の職員や友人に、

「GO HOME. (日本へ帰れ)」といじめを受けました。留守中に家の家財道具を丸ごと持って行かれたり、ひどい時には放火されたこともあったそうです。

パワーポイントによる映像と解説は非常にわかりやすかったです。コーヒープレイク中も質問が飛び交い、参加者にとって興味深い内容だったと思います。人種差別について報道されていることは表面的な事だけだと気づかされました。(岩田 真由己)

天羽さんご夫妻



7/18  
(土)

Aleksandra Problemy さん  
(ポーランド)

今回のスピーカー Aleksandra さんは、ポーランド出身の桃山学院大学の留学生です。ポーランドの美しい風景、四季、建物、食べ物について映像とともに、お話していただきました。彼女のポーランドの大学は、ヤギオ大学と言って14世紀に創立され、コペルニクス、ショパン、マリー・キュリーが学んでいたそうです。その古い伝統と先進性に圧倒されました。しかし、ポーランドは3分割され、ドイツ、オーストリア、ロシアに支配された不幸な歴史を持っています。ロシア占領下、マリー・キュリーは、パリに行って放射能の研究をしています。ポーランドの伝統的芸術・宗教は、戦争や占領によって“disappear” 消えてしまったとも言っていました。

また日本の友人から、ポーランドからアウシュビッツをすぐに結びつけ、質問されるのが本意のようでした。それでもアウシュビッツについて、建物、入口の看板(働けば自由を得られる)や、くつの山等について話してくれました。「アンネの日記」や映画「シンドラーのリスト」の場面がうかんできました。戦争は狂気を生み出すんだと思いました。Aleksandra さんからアウシュビッツの話が聞けてよかったです。

一つ疑問に思いながら、質問する機会を逃してしまっていたことがありました。クラクフにある日本の美術、芸術を紹介する「マンガミュージアム」のことです。なぜ日本の文化

がマンガなのか、ちょっとがっかりした気がしていましたが、偶然7月21日の朝日新聞に「北斎マンガにちなんだ愛称」とあり、納得しました。

Aleksandra さんはいくつかのポーランド語を教えてくださいました。ありがとう→ジュエンクェア、さようなら→ドビゼニア 等々。発音が複雑でなかなか覚えられません。

ブレイクタイムには、お母さまが本国から送ってくださったピェルニというお菓子をいただきました。シナモンの香りがしておいしかったです。Aleksandra さんは8月に日本を離れ韓国旅行。そして10月にヤギオ大学を卒業します。卒業後は会社を作りたいと言っていました。若いエネルギーを感じます。がんばってくださいね。ジュエンクェア、そしてドビゼニア。(清水 春代)



8/15  
(土)

Cu Ayu Angga Dwi Fani さん  
(インドネシア)

今回は以前 EOC でお会いした Ayu さんが発表者だと聞いていたので、とても楽しみにしていました。会場に入ると南国のお花がデザインされた素敵な民族衣装を身にまとった Ayu さんが優しく上品な笑顔で迎えて下さいました。カジュアルな服装の彼女しか知らなかったの、美しい大人の女性に変身されていたのに驚きました(もちろんどちらの Ayu さんも大好きですが)。

彼女はバリで生まれてバリで育った人ですが、結婚されて岸和田に住んでいらっしゃいます。父方のご先祖が中国からバリに来られたので Cu さんという中国の姓が使われているそうです。彼女自身は仏教徒ですが、バリ島では大半の人がヒンドゥー教徒(インドネシア全体ではイスラム教の信者が90%近く占めるそうです)ということで今回のプレゼンではバリのヒンドゥー教に関連した文化や習慣、儀式を中心に沢山お話して下さいました。その中で一番印象的だったのは歯を削る儀式「ポトンギギ」です。犬歯から犬歯までの前歯の尖ったところをヤスリのようなもので削って平にするそうです。男女共に結婚するまでに済ませておかなければならないとても大切な儀式で、歯医者さんではなく僧侶によって執り行われます。犬歯のような尖った歯は獣や悪霊の象徴であり、平にすることで邪悪な心を取り除いた完全な人間になると言われているそうです。

また、椰子の葉やバナナの葉で作った器にきれいな花などを入れたお供え物をする「チャナン」のお話も面白かったです。神々はいたる所に宿

っていると考えられているので、いろんなところに置かれるそうですが、何と神様だけではなく悪霊にも悪さされないようにお供え物をするそうです。写真では神様へのお供え物のほうが大きく美しく盛りつけられていたのにくすりしました。

その他にも、子どもの誕生からその成長に合わせて実に細かく丁寧に数々の儀式が行われ、祝われているというお話から、バリの人たちが子どもたちをいかに大切に慈しんで育てているかということもよくわかりました。

最後にヒンドゥー教の暦に基づいて毎年違う日にやってくる「ニュピ」というお正月。この日は外出、労働、灯火使用、殺生が禁止され静かに家の中で過ごす日なので、バリに行くときはニュピを避けて下さいと言われていました。なるほど、飛行機もトランジットや緊急以外欠航になるそうですから気を付けないといけません、逆に完全に動きが止まった静寂の世界を体験したい気持ちも起きました。

Ayu さん、素晴らしいお話、どうもありがとうございました。また、彼女のプレゼンのために資料集め等準備に協力して下さいましたバリのお友達 Ewiek さん、Satya さん、この場を借りてお礼申し上げます。どうもありがとうございました。(中村 恵子)



## インドネシア技能実習生に接して

スラムシアン 日本の国際貢献の一環として開発途上国の経済発展、産業振興を担う人材育成の為、我が国の進んだ技術技能を外国人に修得させる技能実習制度が平成5年度に発足する。先般、監理団体の商援協同組合からインドネシア人の受け入れに当たり日本語指導の依頼が親善協会にあり会員3名が担当となる。



まず8月に9名、第二陣として9月に10名に対し、延2ヶ月間に亘り国際研修協力機構編纂のテキストを教材にして指導する。既に母国で最小限の日本語は学習しており彼らの理解は速く授業は順調に進む。

特筆すべきは技能知識を積極的に吸収しようとする彼らの

意欲的な態度である。20歳台前半の経済的にも豊かでない青年が慣れない異国の地にて寮での共同生活で自炊しつつ実習に励む。日本の物価特に食料品は高いと言う。

彼らは礼儀正しく真面目であるだけに接触を重ねるにつれ、恰も自分の息子に対するが如く愛情を感じるに至る。やがて受け入れ企業と雇用関係に入ると厳しい修行が待ち受けているであろう。君たちは若い。刻苦勉励、艱難に打ち勝てば3年後に母国に帰り日本での経験は見事に結実するであろう。健闘を祈る。前途に幸あれ。我々は指導という上下関係でなく日本語を素材として交流を図るとする態度で接した結果、多くを学び得難き体験をした。ありがとう。テリマカシ。

(奥野 藤樹)

## 第12期 日本語指導者養成講座 上級編 10名が修了

9/24  
(木)

9月24日に実施された第12期日本語指導者養成講座・上級修了式に、10名の方が修了されました。昨年5月に開講した初級養成講座には19名が挑戦され初級21講座、上級20講座の他実習も交え2年間精力的に取り組まれた方たちです。



今回の受講生の中には、日本語サロンでも学ばれる内モンゴル、中国出身の方も含まれています。受講中にサロンのスタッフとして活動される方、企業からの日本語指導者の要請に応え講師として活動される方などもあり、積極的な方たちです。今後は、5つあるサロンの指導者として活躍されることを期待します。おめでとうございます。

### 【修了された方】

伊藤恵理子	井上 節子	岡 真衣	真 マチ子
白井千恵美	多田 直道	丁 立浄	其楽格尔
鶴岡 光子	廣内 秀子		

## After Café

Mixed Roots

8/15  
(土)



English Open Caféのゲストを探し始め、感じ出したことが、国際結婚して日本に在住している方々が意外に多いことでした。日本語サロンでも、そういう人たちがいるのは感じていましたが、中国系や韓国系の方が多く、一見は日本人と変わらず、その子供達となると日本語をうまく操り、なんの心配もなく日本社会に馴染んでいるように思われました。

ですがCaféのゲストとなると、英語が必要となります。願ひする方々は、西洋系の顔立ちで、我々が思ういかにも外国人という方です。この方々が、日本人と結婚し、在住しています。当然ながら、子供達も、我々日本人が見ると、ハーフだね、という顔立ちです。そこで、私が心配になったのは、俗にハーフといわれるこの子供たちです。塾講師をしていることで、少しは日本の子供達のことを知っています。学校における彼らの立場や友人関係が気になりました。うまくいっているときは良いでしょうが、何かあると同じ立場で相談しあえる友達がいないのでは？成長すると親にも言わないことが多くなるでしょう。そんな時はどうするのでしょうか？彼らが集える場を提供してあげたい。そこで立ち上げたのが、Mixed Rootsです。

実はこれは彼らだけのためのものではありません。日本の子供達のためでもあると思っています。Mixed Rootsに集う彼らを中心にして、新しい英語教育のあり方を考えていきたいと思っています。どれだけのことができるかはわかりませんが、皆さんのお力をお借りして少しずつMixed Rootsの活動をすすめていきたいと思っています。写真は、私の考えに賛同し、一回目の集いに参加して下さった皆さんです。ヴァニアさん(右から二人目)はブラジル出身で、現在私立学校で英語の教師をされています。ご主人(左端)は中国出身です。お子さんは二人です。カルロスさん(左から二人目)はスペイン出身で、岸和田高校で英語教師をされています。奥様(中央)は日本人です。お子さんは一人です。アユさん(右端)はインドネシア出身で、ご主人(欠席)は日本人です。お子さんはまだいらっやいません。みなさんがMixed Rootsと名づけてくださいました。(東田 和代)

# 岸和田に暮らして...

かつては外国の街、岸和田も住めば都となり今は自分が暮らす我が街岸和田。そんな国際色豊かな皆さんに、自分史や岸和田での暮らしについてお話しいただいています。



KISHIWADA

第16回



第16回はペルー出身、春木在住のご夫妻です。

ディアス リヤモ ルス メリーさん (奥さん)

カスティリャ サラス ホアン ホセさん(ご主人)



ペルー出身のメリーさん、ホセさんご夫妻



ペルーでは日系人がたくさん住んでいます。日本でも現在 48,000 人のペルー人が住んでいてとても深い外交関係があります。メリーさんはカハマルカ出身で、インカ帝国最後の皇帝、アタワルパが幽閉され、最後を迎えたところとして有名です。ホセさんは首都リマ出身で大学卒業後24歳の時、はじめて来日しました。その後ペルーに一度戻りましたが、日本が恋しくて7年前に再来日しました。そしてメリーさんと母国で結婚式をあげたあと、岸和田には仕事の関係で1年前から住むようになりました。日本文化にはすっかり慣れ、日常生活では何の不便も感じていないようで、食べ物は刺身、寿司、ラーメン、たこやき何でもOK。ただ、日本でもまだ地震というものを経験したことがなく、火山の噴火や津波について、画像で見たり、いろいろな話を聞いたりしていますが、実感としてその怖さを認識できていない状態です。今後近くで防災訓練などがあれば、ぜひ参加したいそうです。

ホセさんは車の国際免許証を持っていますので、休日にはメリーさんとあちこち買い物や近くをドライブするのを楽しみにしています。



カハマルカの風景▶



リマ市街の様子

道路もよく整備されていて、みんな交通ルールをしっかりと守っているので、安心してドライブが出来るそうです。外国人にとってはもとても住みやすい国です。中南米諸国では、総じて治安が良くありませんが、その点日本は何でも安心できる本当に素晴らしい国で、外国人に対するいろいろな福祉施設は、予約さえすれば通訳付きですので、大変喜んでいます。メリーさんは11月にはママとなりますが、日本語とスペイン語併記の母子手帳を大事にしながら、岸和田市保健センターで「未来のパパ・ママ教室」で、ホセさんといっしょに毎回熱心に且つ楽しく実践教育を受けています。

夢は生まれてきた子どもをぜひ日本の大学で学ばせてあげたいとのこと。

(取材：塩屋 裕)

## Information

### ■大阪府国際交流財団(OFIX)との共催事業

#### Part.1 外国人のための一日無料相談会

(と き) 12月13日(日)10:00 ~ 15:00

(ところ) マドカホール 2階 創作室

外国人または、家族に外国人をもつ方を対象に、年金・税金・ビザ・仕事・教育・生活全般を専門家が相談を受けます。英・スペイン・ベトナム・インドネシア・中国語の通訳が待機します。申し込みはいりません。

\*詳しくは、協会事務所までお問い合わせ下さい ☎ 072-457-9694

#### Part.2 外国人市民と地域社会市民のための防災・災害時訓練

(と き) 3月27日 10:00 ~ 12:00

(ところ) 中央公園東の広場

\*詳しくは、次号に掲載します

### ■English Open Café の開催

(と き) 9月以外の第3土曜日の13:30~

(ところ) マドカホール 3F 視聴覚室

申込なしでどなたでも参加できます。進行は全て英語です。

### ■「ふれあい交流祭り」スタッフ募集と参加のお願い

田尻町にある関西国際センターで日本語を学ぶ外交官など研修生と交流する祭りです。

(と き) 11月23日(祝)13:00 ~ 16:00

(ところ) 関西国際センター(りんくうタウン) 無料駐車場あります

\*スタッフの方は、10:00 ~ 16:30まで。お申込みをお待ちしております

### ■神戸を訪ねる研修ツアー

(と き) 12月10日(木)9:30 ~ 17:00

(ところ) 人と防災未来センター・南京街

(参加費) 500円 \*詳しくは同封のチラシをご覧ください

### にゅとびあ岸和田 No.105 編集担当

緒方理世・奥野藤樹・栗尾宣子・塩屋 裕・中村恵子・三森すみ代・米川典子

お問い合わせや感想などは事務局まで TEL&FAX (072)457-9694

## ご案内